

平成 29 年度 沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部幹事会 議事要旨

## 【取り組み状況・意見交換等】（○幹事 ●事務局）

- 商工会議所連合会の方では、国の制度をそのまま利用して、ジョブカード制度を実施している。沖縄県地域ジョブカードセンターを那覇商工会議所に、沖縄市と宮古島にジョブカードサポートセンターを置いている。正社員として経験の少ない従業員を正社員にさせていただくと、色んな OJT を組み合わせて、実践的な取り組みをして安定的な雇用を推進するという制度を行っている。今年度も事業を続けていく。
- その他に検定試験を実施しており、商工業の技術の普及、その質を高めるためのスキルアップとして、実践的な技能検定を実施している。主に日商さんの簿記検定、販売士検定、それに加えて東京商工会議所が実施する国際検定、ビジネス英語検定、ビジネス検定など実施している。那覇商工会議所で国家試験の情報処理の試験を実施しており、新年度もそのまま実施をして普及に取り組んでいる。

●ありがとうございました。続きまして商工会連合会よろしくお願ひします。

- 特に労働の需給、人手不足感が強い。日頃、中小企業と小規模零細企業の経営者と接する機会が多い。経営指導員などを対象として、このあたりの制度的なものを含めて、説明会などを開催していきたいと考えている。

●次、経営者協会宜しくお願ひします。

- 一昨年、県それから労働局、連合さんと一緒に働き方改革共同宣言をして、それに基づいて去年あたりから、組織的対応をしている。新たに労働雇用対策委員会というのを発足し、労働問題、雇用関係を含めて、15名のメンバーと色んなかたちで対応、検討してきている。
- ジョブ団体の経団連の方も働き方改革、健康経営も含めて重点活動の一つとして取り組んでいる状況。経営者協会の方としても去年、一昨年から色んなかたちで検討、労働局さんとも連携して、推進している。ワークライフバランス推進の認定企業もされているが、経営者協会の方の企業も多数認定されており、労働局さんの方でされている「ひらめき地域健康運動」の方も健康経営部会ということで経営者協会の会長、副会長、理事を中心にそういった取組をしている。
- 質問ですが、雇用対策推進協議会との構成団体数は、おおまかな目安、組織が何団体なのか、決まっているようでしたら大まかな概要を教えてください。

●まだ具体的な団体数については確定しておりません。推進本部の幹事会が 30 団体、推進

協議会には 19 団体あります。推進本部の幹事会と推進会議の幹事会、双方の幹事となっている団体が 12 団体ございます。今考えているのが、19 団体～30 団体の間くらい。30 を超えないような数で、今までの推進協議会の 19 団体に新たに数団体を加えて 25 前後になるかなと思います。大きな枠組みとしては、経済・労働福祉・教育・行政の分野でそれぞれバランスの良いかたちで検討していきたいと考えております。

○ありがとうございます。今後、経営者協会の方で関東経営者協会とも色々連携をし、東京・大阪、関東で働いている人が離職される場合などに、U ターンとか雇用の部分でも協力していくよう話をしている。今年はそういった部分で協力していきたい。

●どうもありがとうございました。続きまして沖工連宜しく申し上げます。

○7月に県産品奨励月間というものがあり、グッジョブ運動も7月になるということで、共に運動をしている。県産品奨励月間につきましては、積極的に県産品を愛用し、県内の経済の循環を高めるということで、その結果、雇用の創出、確保などにつながる。

○もう一つ大きな事業として、10月の県産品の「沖縄の産業まつり」がある。こちらの方も県内、県外の販路の拡大を図ることで雇用の創出、確保につながる。

○産学官の家庭での地域の連携、特にこちらの方を強調したい。私どもはキャリア教育の事業で学校と、産業界の交流事業ということで実施している。今年度は学生を対象とした事業を、小学校4校、中学校4校と高等学校を3校と職業能力開発校1校の12校におきまして、対象の先生方、生徒の方々に産業講話をやっている。工業連合会の会員の企業の皆様の社長さん、部長さんに製造業とはどういったものかを子供たちに教育をしている。昨年は合計1,666名の学生や先生方に産業講話を行っている。

●ありがとうございました。続きまして、建設産業団体連合会さん宜しく願いいたします。

○28年度に、建設産業に特化した合同企業説明会というのを初めて実施した。色んな業種の説明があるが、建設業に特化したのは昨年が初めてとなる。6月に開催し、30企業が参加した。29年度も、6月8日にコンベンションの方で予定しており、56業者が参加されるということで、昨年は各工業高校を中心に実施していたが、今回は普通高校、それから大学、専門学校と範囲を広げて実施する予定。

○企業に入った後に離職される方が非常に多い。高校生のうちに資格を取得していれば離職しにくいという統計も出ているので、まず高校生のうちに建設業に関連する資格を取っていただくことで、業界としても高校生向けにこちらの方で半分補助をして取得できるように昨年からは実施している。

○昨年、親とお子さんを対象にした建設業のイメージアップの建設フェスタをセルラースタジアム周辺で実施した。今年度は11月に沖縄市の方で開催することが決定しており、継続してイメージアップを図っていく予定。

●どうもありがとうございました。続きまして農業協同組合中央会様宜しく申し上げます。

○まず JA おきなわの方では、毎年 500 名ほどの受験者がおり、その中から 126 名を 4 月に採用している。最近の傾向としては、県外からの受験者も増えており、高校も普通高校に限らず農業高校、商業高校、工業高校からも採用している状況。任用替わりということで、最初は契約で入り、2 年以上経過した方を対象に、正職員への登用ということで試験を行い、今回 45 名を正職員に任用替えした。

○共済連に関しては、組織が 50 規模であり、今回も 5 名程度の採用になっている。中央会は 20 名弱の規模で、毎年採用はない。ここ 1, 2 年の採用が続いていたが、今回は採用なしというような状況である。

●ありがとうございました。続きまして、情報通信関連産業団体連合様宜しく申し上げます。

○当団体は、IT 戦略センターを立ち上げる大事業があり、観光に次ぐ沖縄の産業ということで何回かの会合をもったところ。沖縄の人材を育成し、雇用に結び付ける産業を作って貢献していきたいと思っている。当組合と、県、団体と協議しながら IT 戦略センターを立ち上げ、確実に支えながら沖縄の IT と雇用に貢献できるものと思っており、共に頑張っていきたい。

●ありがとうございました。続いてコンベンションビューロー宜しく申し上げます。

○福祉、医療、建設など様々な分野で観光でも人材の確保育成が非常に課題となっている中、インターンシップの積極的な受け入れ、学校現場に出かけて行って出前授業とかもやっているが、昨年の県のグッジョブの事業と連携してテレビ番組の制作にも参加をさせていただいた。

○今後のポイントになってくると思うのが、正規、非正規、観光関連、産業も含めて雇用の質。平成 26 年度から県から受けているが、観光関連産業の実態調査というのをやっている。その中では、従前は、宿泊、飲食サービスに限定されている大きい分類に、旅行業、宿泊業、観光施設、運輸などに細分化し、9 つの分野、トータル 200 事業者に、定点的な調査を昨年度で 3 年間やっている。今年の 7 月か 8 月頃には、3 年分の経年変化を含めた分析ができると思う。中間的なところでの整理では、着実に給与の部分では上がってきていると見られてきた。正規、非正規についても正規率が少しずつ上がってきているという状況がある。そういった部分のポジティブな情報とか、あるいはそういった昨今の状況を受けて観光関連の事業者の中には、実際には雇用の質の改善に取り組み、一定程度の人材確保、育成に取り組んでいる事例も出てきているので、是非そういったところにも、引き続きスポットを当てていただき、こういった取組をすれば若い人も含めてしっかり集まってくるというメッセージも出していければなと思っており、県と連携しながら進めていきたい。

●どうもありがとうございました。ただいまの件に関しまして、この会議が量の拡大でしたら、次の統合した会議では質の話になってくる、中心的な話になってくるかと思いますので、今後とも宜しく願います。それでは産業振興公社宜しく願います。

○中小企業者の創業から、場合によっては廃業に至るまで、その時々に応じて様々な支援をやっている。例えば、研究開発、繊維開発、人材育成、場合によっては、県外展開、更には海外展開を積極的に支援することによって、産業の拡大を占めている部分であり、産業拡大を振興することによって、併せて雇用の拡大、雇用の質の改善も繋がっていくようなかたちで産業振興に力を入れている。

○特に雇用関係の事業については、県の方から正規雇用化企業応援事業というのを受託している。これは非正規から正社員に転換した事業者に対して、県外、県内の様々な人材育成、研修費用を支援することによって、非正規から正社員に転換を図っていく内容となっている。

○もう一つは、沖縄県世代間スキル継承型促進事業というのを県から受託している。これは、若年者を採用し、併せて高齢の方とセットにして、ペア就労ということで、高齢者の方々の若い従業員の方に継承していこうというもので、そうすることで社員の質の向上を図ろうとしている。事業所の中で、非正規化の高い業界、団体の方と色々連携し、事業のPR、業界の困っている部分を聞いたりして、雇用の拡大に繋げていこうと思っている。世代間スキルについて建設業関係で色々取組をしており、昨今人手不足の部分もあり、高齢者の方々の活動を若年者とのペアを組んで継承というのはとてもいい事業だなと思っている。

●ありがとうございました。学校関係で沖縄県専修学校・各種学校協会宜しく願います。

○沖専各の入学者1年生は約3千人いる。入学年が約6千人、就職に向かって色々教育をしている、現行において就職率は非常に高いが、定着率という問題はここの面でまだ表れていない。今後一つの課題だと思っている。

○若年層に対しての適材・適性の就職、適正な職種ということで、7月に仕事ミュージアムをコンベンションで行っている。建設フェアですとか、そういうものもあるようですので、多くの子供たちがどのような職種に就いた方が就職・進学を考えてくれるのか、若年層に向けて我々は行っている。特に、宮古・石垣においては、私どもではルックジョブという名称で、中学校で将来の進学、それから職業とは何ぞやという体験のコーナーをしてもらいます。今回、特に石垣島においては、石垣の高校の先生方にも来ていただき、高校・中学校の学生に対して高校でも受験者数を増やさないといけないため、中学生向けに高校進学、大学進学、若しくは専門学校、就職をどういうかたちで職意識を高めるかということで開催している。私どもは今これに力を入れている。

●意見は宜しいですか。

○工業連合会では産業まつり、フェスタ等、それから私どもはルックジョブという名称でやっておりますが、あらゆるところで名前を変えた職業紹介を皆さんやっている中、関連したところがあるが、出来ればどこかでそろそろ類似したところと一緒に出来ないか。もっと効率のいい就業の説明会等を検討するのもいいじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

●建設フェスタは建設連合会さんでやっていますが、新卒者とかいう括りですと、各学校と一緒にできると、それから教育関係の最初の新卒の方でしたら、また同じように教育できる。教育ではない他の業種と一緒にやる方が効率がいいのであれば、その辺の話も検討していきたいと思います。

○例えば、事業定着支援の方で同じような内容で、宮古の方でなかなか人が集まらない。催事をやっても別の事業の宣伝にもなったりする。実は、同じような事業所が離島の方でも職業紹介やっているが、その時なかなか人が集まらないといった同じ悩みがあるので、一緒に開催できれば良いと思っています。今後また検討課題にしたいと思いません。

●貴重なご意見ありがとうございます。検討させていただきます。次に大学就職指導研究協議会宜しく申し上げます。

○昨年度の取り組み状況として、産業と雇用の拡大及び雇用の質の向上のための推進では、沖縄県大学就職指導研究協議会加盟大学並びに関係団体と連携しながら企業・業種に対して理解を求め、取組を学生に対して行っている。各大学においては、学内説明会等を実施し、就職ガイダンス等を行っている。推進体制の強化として、関係団体との連携を密に行い、積極的に行っている。

○産学官地域家庭の連携の推進では、うりずんプロジェクトを実施している大学生対象のインターンシップに対し、各団体等の協力を得ながら連携を図り、学生周知等を行っている。その他のところでは、各大学等において沖縄県パワフルサポートと連携し、卒業年次を対象に就職支援を行っている。

●ありがとうございました。続きまして、琉球大学宜しく申し上げます。

○キャリア教育センターにおいて、3年次及び大学1年次学生に対して、6月に就職セミナーを開催している。学内の各学部においても工学部、医学部に関しては主に保健学科の学生を対象に独自に会社説明会を開催させていただいている。

○推進体制の強化では、関係団体と協議等を積極的に行い、昨年度に引き続き、グッジョブリーダーにおいて、こちらの方に置いている。

○インターンシップの取組では、沖縄総合事務局の委託事業と民間企業の取り組みとして、うりずんプロジェクトを実施している。また、各企業様の方でも受け入れているところ

であるが、県内の行政機関や企業の方と連携したインターンシップを実施している。本学の独自の取り組みでは、キャリア教育センターと懇談会を実施して、就職の現状等の説明や、懇談を通じた家庭との連携を図っている。

●ありがとうございました。高等学校 PTA 連合会ですけど、組織的に取り組みなどないと思いますけども、何か雇用に関してご意見ございましたら宜しくお願いします。

○高校生が職業意識を育てるのはとても重要だということは、平成 11 年度に教育センターで研究をやっていたが、球陽高校で実践したら、下から 2 番目の学校の成績だった学級が、上から 2 番目になっていた。隣のクラスもインターンシップを実施し、そうするとその学科全体の成績が良くなった。10 年間の球陽プロジェクトは、全国にも発信された。非常に職業意識、進路意識を高めると、成績も良くなる、勤怠状況も良くなる。教育庁と連携しながら、学校がそういう研究指定を受けた。

○PTA としては、沖縄県だけが生徒たちの進路を考えるのではなく、来年沖縄で開催される九州大会の準備をしているが、全国の大会でも全国的な課題、九州全体の課題を見ながら、日本全体を見ながら沖縄県の問題を浮き彫りにし、沖縄県の生徒たちに質のいい仕事を作り上げていくことが、沖縄県の繁栄、日本の繁栄にも結び付けるので、そういったことも意識しながら取り組んでいきたいと思っている。

●ありがとうございました。町村会の方向かありましたら宜しくお願いします。

○町村会は 20 名弱の小さな組織であるが、積極的なグッジョブ運動の推進をしていこうということで、当会の方で自治おきなわという広報紙を年 4 回発行しているが、それにロゴマークを入れ、広報周知活動に努めている。また、職員は沖縄県の 31 町村で町村の職員と交流をし、積極的に周知しようと、職員の名刺の方にもそのロゴマークを挿入して周知をしている。

●ありがとうございました。続きましてホテル旅館生活衛生組合様宜しくお願いします。

○雇用の拡大と質の向上の取り組みについては、通年行っているのは、毎月 1 回発行している組合員に対しての事務局便りの中に、雇用や就労に関する法律の改正周知を毎年行っている。

○去年、組合の方で力をいれた事業だが、ホテル業は 24 時間営業しているが、就職を考えている学生さんに色々話を聞くと、就労時間がないというイメージを持っている方が多いことが分かった。情報のミスマッチ、人材のミスマッチを防ぐため、高校生、専門学校生、大学生向けの本として、ホテルの仕事というのを発刊した。なるべく文字を少なくして写真を多くし、ホテル業で実際に就職して 1 年から 5 年未満の方々にスポットを当て、ホテル業とはこういう楽しい職場ですよということで、ホテル業を紹介する本を 3 千部発行して、県内の学校、ハローワークの方に配布した。

○一番重要な人手不足に関して、自分の部署のどこで人手が不足しているのか実態調査を

現在やっている最中であり、その調査で数字がまとまれば、その結果を活かして人材確保に取り組んでいきたい。

●ありがとうございました。続きまして中小企業家同友会お願いします。

○毎年4月に入社式と合同で新入社員研修をやっている。中小企業はなかなか入社式ができない上に、新人研修もできないため、小さくても集まれば大きなことできるよということで毎年やっているが、昨年の3割増しということで参加者が増えていた。特徴的なのは高校生が増えていたこと。そういう意味では、中小企業は厳しい中でも、それぞれ頑張っているのかなということを感じている。

○障害者雇用経済団体で取り組むのはうちだけだと思っており、全国でもこの取組を続けているのはうちだけであり、これも10年以上続けている。

○人集めという点では、那覇が一番楽だが、これもわざわざ各地を周って、各地の自治体の協力を得ながら取り組むようにしている。今年は石垣で取り組む。地道にコツコツ雇用の拡大ということで取り組んでいる。

●ありがとうございました。続きまして経済同友会様宜しくお願いします。

○当会は会員数が270名超おり、各種委員会を設置し、その中で皆様と情報を共有、勉強をして私見を広げ、沖縄の現状を知っていただくといったところで活動をしている。多数の会員様と沖縄県の現状、問題点を認識したうえで、各種団体と何かしら橋渡しをして、沖縄県の団体と会員の皆様と橋渡しができればいいなと思っている。

●ありがとうございました。各団体の皆様色々取組をしてくださってありがとうございました。情報を共有することによって今後の取り組みにも活用できるんじゃないかなというふうに思っております。その他、まだ言い足りないご意見・ご要望等ございましたら、この際ですけれどもいかがでしょうか。宜しいでしょうか。それでは意見交換会を終了させていただきます。皆様から頂いたご意見につきましては、また整理をしまして、来月の推進本部会議に報告したいと思います。本日はどうもご協力ありがとうございました。お疲れ様でございました。